

災害ボランティア（歯科）実施…2014.08.28

1. 実施場所

①梅林小学校（歯科医師 3 名：三反田県歯専務・宮城局長・歯科衛生士 5 名 歯科助手 1 名）

13:00～15:30 の間で 3 班に分かれ、2 階・3 階・4 階の各教室に避難されている教室を訪問。

②佐東公民館（歯科医師 3 名：三反田県歯専務・宮城局長・歯科衛生士 1 名 歯科助手 1 名）

18:00～20:30 の間で 2 班に分かれ、各部屋へ個別訪問。

2. 実施内容

活動前は義歯修理や簡単なカリエス処置を想定し準備を行い診療器具を持参したものの、両実施場所においても、歯科ボランティアへの不信感が初めは強かった。特に報道陣や報道カメラが入ると、大声で「出て行ってくれ」と叫ぶ方もおられた。それ以降は、カメラなど取材が入らない状態で個々の避難者の皆様に歯や口腔の状態をお聞きすると少しづつ歩み寄りが得られた。

まず、歯ブラシ・歯磨剤・義歯洗浄剤・義歯安定剤など無料で配布しつつ避難者の今の状況をお聞きするとポツポツと本音が聞ける。口腔に関する内容は約 4 分の一程度と思われる。梅林小学校は、高齢者の方が多くあまり身体を動かしていないこともあり、口渴を主訴にされる方が多い。そのため歯科衛生士が唾液腺マッサージをよく行った。佐東公民館では口腔ケアを実施希望の方が 8 名いらっしゃると事前に連絡あるものの、実施場所には 1 名も来られなかつたため、個別に避難者の方へお聞きすることとした。指令系統はまったく機能していないように感じられた。そのため、ただ待つのではなくどんどん前へ出していくように各部屋を訪問することとなったが結果的には様々な方と触れ合えて良かった。

実施内容に記載できたのは 45 名であるが、実際に歯ブラシや歯磨剤・義歯洗浄剤・義歯安定剤を配布した人数は約 250 名と想定される。逆に 250 名中の約 200 名は名前・年齢さえ教えていただけない、いわゆるアウェイな状況下である。そのため、歯科医師・歯科衛生士チームがあきらめずに関わっていく必要性がある。

避難者に足りないものは、物資や治療ではなく人として接する温かい心だと感じた。もし物資で足りないものがあるとすれば、義歯保管ケース・義歯洗浄剤といったところか。現在災害後 1 週間経過なので、まだ口腔のことまで考えられないケースが多く見受けられた。住居の問題・抽選の結果・自宅の土砂掻き・交通網・将来への不安の方がまだ大きい方がほとんどであるが、これから日数を経るごとに、口腔ケアが必要になってくると思われる。県歯科医師会・県歯科衛生士会・安佐歯科医師会および行政との更なるタイアップがいま求められている。

3. 課題

①歯科ボランティアの先生方の交通手段

自家用車は駐車禁止のため、タクシーか公共交通機関（JR は緑井駅まで）。かなりの荷物の為、タクシートなると交通費の問題が出てくる。道路は土砂のため、ぬかるんでいるか、もしくは渴いて土ぼこり。徒歩であればマスクは必要。2ヶ所の避難所を回るのは、身体的にも精神的にも負担が大きいのではないか。

②歯科ボランティアはいつまで継続するのか？

当分は継続するものと考えられるが最終的にはかかりつけの歯科もしくは近隣の歯科への受診が求められる。

③避難者との関わり方

ほとんどの方は、歯科への興味がないためそれ以外の話題から入っていくことが多かった。1 回目は無料物品配布でキッカケを作ることができるが、2 回目以降にはどのように接していくのが良いか検討すべき課題である。

災害ボランティア（歯科）画像…2014.08.28

